



2015年度 第3回 一橋大学政策フォーラム

フューチャー・デザイン

～七世代先を見据えた社会の構築を目指して～



「仮想将来世代」の概念が注目を集めている。持続可能な社会を構築するため、今は存在しない将来世代の視点・利益を反映した意思決定をしようという試みだ。新たな社会を創造する枠組み「フューチャー・デザイン」を考えるフォーラムが12月中旬、東京・一ツ橋の一橋講堂で開かれ、専門家が最新情報を報告した。

第一部 フューチャー・デザイン：仮想将来世代の可能性

フューチャー・デザイン 仮想将来世代の可能性



一橋大学経済研究所教授・
日本学術会議会員
西條 辰義氏

市場原理、民主制、個人が持つ素直性は将来世代にまで利益を配分しない。むしろ、その要素が絡み合い、我々は

仮想将来世代との共創による 未来ビジョン形成と地域実践 新しい社会秩序をデザイン



大阪大学環境イノベーション
デザインセンター特任准教授
原 圭史郎氏

持続可能な社会を導くためには、今の課題に対して、この世代が負担するの譲歩しなければならぬ。だが、将来

彼らは重要な意思決定の際、7世代後の人々になりきった。我々にはない発想だ。

矢巾町における住民参加型水道事業 ビジョン策定とフューチャー・デザイン インフラ整備に将来像必要



岩手県矢巾町役場
上下水道課係長
吉岡 律司氏

水道の費用構造の大半は、水道管、浄水場の固定費だ。人口減で水の使用量が減って、コストの総額は変わらな

当初は水道料金の値下げを主張したが、安全な水の供給が求められた。その後、施設を見直し、老朽化の現状を説明、ワークショップを通じて水道への理解を深めた。住民に変化が求められ、水道料金改定を望む声が上がった。

ドメイン投票と フューチャー・デザイン



高知工科大学フューチャー・
デザイン・研究センター・
ディレクター兼教授
肥前 洋一氏

個人の属性も判断傾向も影響を与える。例えば子供を持つ親は、将来世代をよりおも

「ドメイン投票」という方式があり、将来志向の選挙制度として議論になっている。投票権を持たない子供を持つ

将来世代の視点で意思決定

フューチャー・デザインは なぜ必要か

現行社会保障制度を見直す



一橋大学経済研究所教授
小塩 隆士氏

過去30年間の政府支出の対国内総生産（GDP）比の上昇は、社会保障給付の増加だけでは説明できる。財政政

将来省の可能性

政府が難しくければ地方から



大阪大学環境イノベーション
デザインセンター特任准教授
上須 道徳氏

2000年以降に始まった「サステナビリティ学」には、このままでは持続不可能な状況になるという研究と人

講演者8人による討論



小塩 仮想将来世代の重要性について聞きたい。

小塩 仮想将来世代はどのような立場で話すべきか。

原 非常に重要なポイントだ。将来の社会状況は大きく変わっているだろう。専門家も関わりつつ、複数の将来シナリオを描いた上でビジョンをつくる必要がある。

将来ビジョンを持つ

小塩 現代と将来世代の利害対立をどう調整すればよいか。

技術進歩の速さ考慮

森口 現代は科学技術の変化のスピードがあまりにも速い。現在の情報で将来世代のことを代弁できるかどうか

災害復興から見た 将来デザインと学際連携

東日本大震災以降、日本学術会議は様々な分野で提言を発信してきた。ある提言では「将来」という言葉は、主に

提言では、復興庁の減災庁への改組にも言及しているが、これは復興庁が21年3月31日までに廃止されること

未来省が将来世代見据え資源分配

我々の生活を向上させるためには、新しい製品やサービスの質の向上のほか、生産能力を拡大させるためイノベ

イノベーションと フューチャー・デザイン

シオンが必要だ。イノベーションには、目標設定が不可欠で、目標を達成するためには何が必要かを考え実行することが必須で、現在総合科学技術イノベーション会議が

戸横断的に推進している。持続的社会的実現を目標に設定した場合、バックキャストイングの手法を使って、例えば、代替エネルギー実現のための知識や人材、補完的な制度を整えていかなければならない。

同会議がイノベーションのために省庁横断的に資源配分を行っているように、あらゆる政策について将来省が将来世代を見据えて、資源分配を行っている必要がある。

減災省への改組より将来省へ

森口 被災はむしろ重要な

が、それだけでなく、より広いフューチャー・デザインの観点から将来省にしてみればどうかと提案したい。同時に我々も、学際的な視点で、復興や防災・減災への取り組みを進めていきたい。

小塩 イロコイ族は7世代先を考慮することができた。

西條 イロコイ族の制度は近代以前だったのではなく、独自の民主制をデザインしたと考えるのが妥当だろう。

肥前 我々にもできるだろう。漢方薬のように人間に備わっている力を引き出す仕組みを考えたとき、将来省はその一つだ。

専門家には市民支援を
西條 民主制とは、現代の利益を保障するシステムだ。専門家だけの集まりである審議会には問題があり、専門家が市民のサポーターになることが大切ではないか。

主催：一橋大学・一橋大学経済研究所
共催：科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域平成27年度採択プロジェクト企画調査「仮想将来世代との共創によるビジョン設計・合意形成手法の検討」（代表・原圭史郎）
科学技術振興機構（JST）フューチャー・アース構想の推進事業「フューチャー・アース：課題解決に向けたトランスディシプリナリー研究の可能性調査」平成27年度採択課題「持続可能な社会へのトランスフォーメーションを可能にする社会制度の変革と設計」（代表・西條辰義）
後援：日本学術会議
お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム <http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html>

広告